



## パネルディスカッションに参加しました！

令和8年1月24日(土)横須賀市立横須賀総合高等学校 SEA ホールにて、海洋地球研究船「みらい」退役記念シンポジウムが開催されました。シンポジウムでは JAMSTEC の方々の講演やパネルディスカッションがあり、横須賀高校は「みらいの海、未来へのバトン～地球規模の課題を身近な横須賀から考える～」のテーマでパネルディスカッションに参加しました。



今回のパネルディスカッションでは、研究者の皆様から直接、調査船みらいや身近な海について質問できる貴重な機会を頂き、海についての知見が非常に深まったと感じています。研究者の皆様が航海の際どのように過ごしているか、といったところから、近年の環境問題がどういった要素とつながっているのかといった内容まで、初めて知る事ばかりでした。事前の打ち合わせでも、海流と生態系の関係など、様々なことを教えていただきました。

また、私と共にディスカッションに参加していた海洋科学高校のお二人も、非常に海についての知識が豊富で、お二人のそれぞれ違う視点からの質問や感想も非常に学びになりました。

そして今回、JAMSTEC や市の皆様は、目的の一つとして「海洋の未来を担う次世代へ」ということを重視しておられました。学ぶだけでなく、それを活かして未来の海について考えることの重要性について、改めて実感することができたと思います

1年3組 岩田 悠希



## 勉強も研究も、自ら納得するまでやる

坂口志文さんは制御性T細胞という“体を守る仕組み”を世界で初めて明らかにし、2名のアメリカ人研究者 (Dr. Mary E. Brunkow, Dr. Fred Ramsdell) との共同受賞という形でノーベル生理学・医学賞を受賞しました。長い間、理解されない時期や壁に直面しながらも、自分の研究を信じて歩み続けました。その姿勢は、科学の世界だけでなく、これから未来へ挑むみなさんにも大切なヒントを与えてくれます。

1976年京都大学医学部卒業。免疫最後の大発見といわれる「制御性T細胞」を発見し(95年)、1型糖尿病などの自己免疫病の解明、がん免疫治療の進展に挑んでいる。



日本人初のノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士の言葉に「学問とは自分を納得させることである」とあります。まさに本質をつくもので、勉強も研究も自分が納得しなければ前進できませんし、よいアイデアも浮かばないでしょう。「周りがやっているから」「世の中で流行っているから」という理由で向き合ってもモチベーションは決して上がりません。研究者を志す高校生や大学生の皆さんは、その意思を強くもって日々努力してほしいと思います。同時に“継続する”ことも重要です。私の研究人生を振り返ると、「なぜ免疫系は自分を守らず自らを攻撃するのか？」と疑問をもったことがすべての始まりでした。それを何十年も追究し、コツコツ成果を積み上げ、長い道のりを経て臨床に貢献できる段階に辿り着きました。テクノロジーは進化しますが、チャレンジ精神をもって挑む姿勢はいつの時代も不変です。時に苦勞もあり、目の前に壁が立ちはだかることもあります。それでも小さな確認を重ね、大発見につながる可能性があるかと信じて歩み続けるのが研究の醍醐味です。皆さんも自分が目指す道を信じて前進してください。